

IR REPORT

第22期 株主通信

2014年8月1日から2015年7月31日まで

CONTENTS

What's CCS	01
株主の皆様へ	02
トップインタビュー	03
特集: テスティングルームの拡充	05
連結決算の状況	07
トピックス	09
会社概要	10

シーシーエス株式会社

証券コード: 6669

シーシーエスは1993年に京都にて設立以来、工業用LED照明メーカーとして成長してまいりました。工業用途で培ったノウハウや技術を強みに新しい事業分野へも展開しています。また、北米、アジア、ヨーロッパへと海外へも事業を展開しています。



MV(マシンビジョン)事業

リチウムイオン電池

半導体・電子部品

太陽電池

自動車

包装・食品・薬品

MV(マシンビジョン)照明

シーシーエスは、MV(マシンビジョン)LED照明におけるリーディングカンパニーとして、独自のコアテクノロジーに基づき開発したバリエーション豊かな照明ラインナップとライティングソリューション*を提供しています。
*ライティングソリューション=光の照射範囲、照射角度、照射波長など、さまざまな要素を組み合わせた光の当て方の総合的なノウハウをいいます。

MV(マシンビジョン)照明とは

さまざまな製品の製造ラインにおいて良品・不良品を検査する工程で画像処理検査が行われていますが、検査対象物に「どのような光を当てるか」によって検査精度は大きく変わってしまうことから、LED照明がこの検査のカギを握っています。微細で複雑な工業用製品や、生産効率向上のため高速化が進む飲料ボトルや薬品、食品パッケージの検査など、人間の目では判別が難しい検査に多く使われています。最近では、液晶パネルや高機能フィルムの欠陥検査やロボットビジョン照明として使われるなど、さまざまな製品が生み出されるFA業界において、その用途は広がっています。

新規事業

デバイスビジネス

「自然光LED」デバイスや、UV-LEDデバイス等のオリジナルLEDデバイスやモジュールをさまざまな製品へ提供しています。

美術館・博物館ビジネス

世界最高水準の演色性*をもつ「自然光LED」を強みに、美術館・博物館に最適な照明を提供しています。*演色性=一般的に演色性の高い光源とは、対象物の色合いを変えずに照らし出すものをいいます。

アグリバイオビジネス

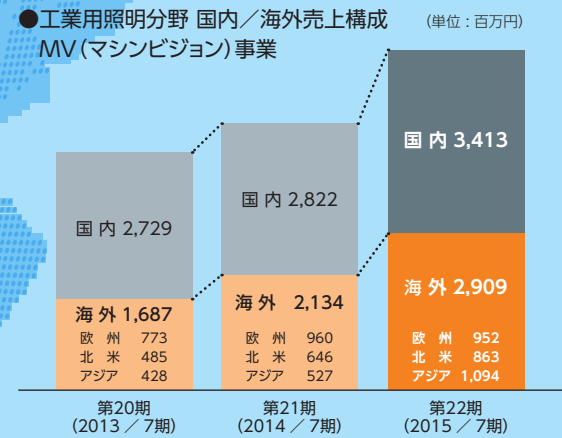
大学や研究所向けに独自開発の植物育成用LED照明を提案すると同時に、植物工場向けにPHILIPS社照明や最適な光環境の提案も行っております。

メディカルビジネス

内視鏡用などの診断機器をはじめ、治療に必要な光の応用方法を研究・開発しています。特定の光を必要とする手術用にLED照明等を提供しています。

UVビジネス

MV(マシンビジョン)照明で培った技術とノウハウをその他の工業用照明にも展開しています。紫外線硬化樹脂を利用したフィルムやシートの接着工程に、UV(紫外)LED照射器を提供しています。



株主の皆様へ
To Our Shareholders



中期経営計画の基本方針である「成長の加速」に向け、新たな成長軌道の確立を目指してまいります。

ご挨拶

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当期は、2014年10月に発表いたしました中期経営計画の基本方針である「成長の加速」に基づき、「海外展開の加速」「国内断トツトップシェアの奪還」「新規事業の堅実成長」を目指して事業の拡大、企業価値の向上に邁進いたしました。その結果、当期の業績は売上高6,951百万円(前期比26.2%増)、営業利益773百万円(前期比37.8%増)、経常利益760百万円(前期比54.5%増)、当期純利益772百万円(前期比93.7%増)となりました。業績に対する評価としましては、売上・利益ともに期首の計画を上回り、2009年7月期のリーマンショック以降、取り組んでまいりました経営改革が着実に成果を上げており、売上高に関しましては、おかげさまで過去最高を達成するところまでできました。来期につきましても基本方針「成長の加速」のもと、前進の歩みを緩めることなく、新たな成長軌道の確立に向け努力してまいります。株主様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様におかれましては、更なるご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

●2015年7月期の業績概況



社是

お客様に愛と感謝

基本理念

光を科学し、社会に貢献する

行動指針

すべてはお客様のために

代表執行役社長 各務嘉郎

国内トップシェアをより強固なものにし、 持続可能な成長基盤を整え 企業価値の向上に努めます。

Q 第22期(2015年7月期)の主要施策について
その成果をご報告願います。

A 国内MV事業が堅調に拡大し、
当期における好業績を牽引しました。

第22期は重点方針として「経営体質の革新」「MV(マシンビジョン)事業の拡大と新規事業の再構築」「開発力の更なる革新強化」を掲げて事業を推進いたしました。

「経営体質の革新」の取り組みにつきましては、方向性として大きく社内と社外に分かれております。社内は営業力・販売力の強化に取り組み、協力販売代理店の拡大のほか、金沢(石川県)・守山(滋賀県)のテストングルーム(実験室)開設(2014年9月)などを着実に進めることができ、“お客様の懐に入る営業”が身につけてまいりました。また、人材育成面では、“汗をかく・知恵を出す”ことへの評価を、正しくそして厳しく行いました。労働生産性のアップについては、各部門に対して目標の明確化と達成へのこだわりを訴え、現場はそれらに十分応えてくれたと考えております。

社外に関しては、画像処理検査業界がボーダレス化している中、後れを取らないために他社との業務提携を積極的に推進いたしました。一例を挙げますと、産業用カメラメーカーとの連携によるリング照明一体型の超小型カメラや工業用制御装置メーカーとの高速・高分解能カラー3Dスキャナー、海外コン



ローラーメーカーとの画像処理システムとの連携が可能となるTrinityを搭載したLED照明など、さまざまな共同開発が実を結びました。

第2点目の「MV事業の拡大と新規事業の再構築」につきましては、MV事業に関し、中国の合併会社「Rsee」は目標達成には至りませんでした。業績へ寄与するようになり、国内は営業改革や営業拠点の拡大が順調に進み、売上高は大きく伸びました。この結果、国内シェアが上昇し、ランチェスターの戦略による「盤石なトップ企業のシェア41.7%」が視野に入ってきました。また、新規事業の再構築は現在進行形で、当社の強みを活かした「自然光LED」デバイスをコア商材としたビジネスをベースに、第23期に整備いたします。

第3点目の「開発力の更なる革新強化」は、以前から進めている他社を凌駕する新製品開発に弾みがついてきました。お客様の開発部門や生産部門など、現場密着のマーケティングが課題解決へ向けてのソリューション力を高め、それが成果と

なって表れてきていると実感しております。目標としている、お客様への切れ目のない矢継ぎ早の提案の実現まであと少しと、かなりの力は付いてきたと思います。また、当社は現在、業界トップメーカーのプライドを持って、断トツの“モノづくり力”の強化に取り組んでいるところです。ライバル会社が追従できない、たとえば当社の製品を解体しても生産技術が分からないというブラックボックス化したレベルの高いモノづくりを目指したいと考えております。

Q 当期の配当金額および配当方針について
お聞かせください。

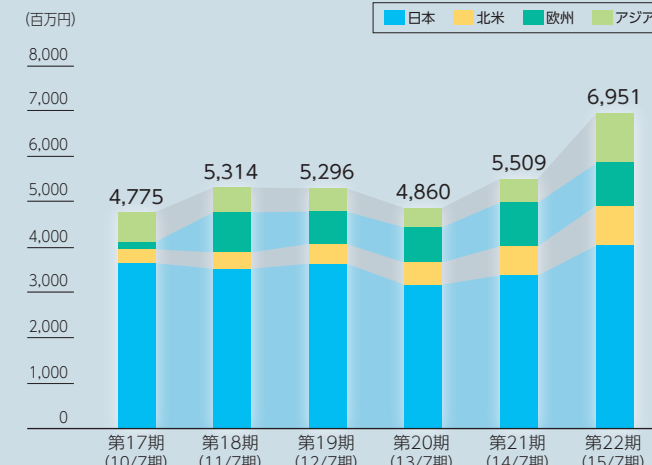
A 第22期は好業績のもと前期より10円
増配し20円とさせていただきます。

これまで株主様への配当は、業績の良し悪しにかかわらず安定した金額を還元していくことを主眼としてまいりました。第

■第23期の重点方針

- 1 経営体質の強化**
①コーポレート機能の戦力化
②人材力・組織力の更なる向上
③企業文化の継続的醸成および浸透
- 2 事業基盤の強化**
①総合力の弛まぬ錬磨によるブランド力・市場シェアの盤石化
②未開拓&強化市場エリアへの積極攻勢
③経営資源シフトで新規事業の成長力強化
- 3 開発力の強化と革新**
①競合に先行するマーケティング力・製品企画力の徹底強化
②顧客QCDSの満額回答を可能にする技術・生産力の進化と深化
③将来の事業を支える、先を見据えたコア技術の先行開発

■地域別売上高



23期からは、配当性向を高めていくことを前提に、株主様への還元・従業員への賞与・内部留保のバランスを見ながら、業績に応じた配当を行っていく方針といたしました。連結配当性向は20~30%を目標としていく方針です。

Q 中期経営計画について基本方針ならびに
進捗状況をお聞かせください。

A 「成長の加速」を基本方針とし、1年目の
第22期は順調に進捗いたしました。

中期経営計画としては、前期までを成長へ向けた基盤整備の時期と捉えていました。第22期からは3ヵ年計画として新たな成長軌道の確立を目指し、「成長の加速」を基本方針として「海外展開の加速」「国内断トツトップシェアの奪還」「新規事業の堅実成長」を主要施策として掲げております。

新しい基本方針のもと、第1年目の当期は総じて好調に推移

したと評価しています。先ほど申し上げたように、営業力・販売力の強化が実を結びつつあり、国内外ともに電子部品・半導体業界、自動車業界の積極的な設備投資を背景に業績を伸ばすことができ、新規事業に関しても、他社との共同開発も進んで着実に業績を伸ばしており、全体として概ね計画通りに進捗したと判断しています。

なお当社の中期経営計画は、3ヵ年計画を基本としていますが、経営環境の変化に対応するため、具体的な取り組み、年度目標等については毎年見直しを行う柔軟な姿勢で取り組んでおります。

CCSが長期的に目指す姿

- 画像処理用LED照明事業
 - ▶シェア 国内：50%超 海外：30%超
 - ▶売上比率 国内：50% 海外：50%
- 新規事業の売上比率 50%

Q 第23期(2016年7月期)の見通しについて
どのようにお考えですか。

A 過去最高の収益達成を目標に
更なる企業価値向上に努めます。

第23期の経営環境につきましては、中国の景気減速等の懸念材料はありますが、第22期同様、主要顧客先である電子部品・半導体業界、自動車業界、三品(食品・医薬品・化粧品)業界の設備投資は堅調に推移すると見えています。当社としては更なるシェアアップを図っていくチャンスと捉えて、新しい成長軌道の基盤を築き上げたいと考えております。

重点方針は「経営体質の強化」「事業基盤の強化」「開発力の強化と革新」を掲げました。「経営体質の強化」につきましては、企業文化の醸成と攻めの経営を継続します。新たな取り組みとしては、コーポレートガバナンスコードへの対応をしっかりと行ってまいります。

「事業基盤の強化」は、シェアアップによるブランド力の向上です。それには競合対策への強化が必要であることから、プロジェクトチームを組み、断トツのトップシェアを目指して取り組んでいく計画です。また、内外ともに未開拓の地域や営業的な空白区に対しては積極的に参入を図り、激戦区は営業体制の強化に努め、設備や人員の強化を進めます。

「開発力の強化と革新」につきましては、お客様に対してQCDS(Quality, Cost, Delivery, Service)の満額回答ができるようさらに強化していく中で、開発スピードを加速させていきたいと考えております。

第23期の業績は、収益ともに過去最高額の達成が目標です。そして、第25期(2018年7月期)には、売上高105億円を新たな中期経営計画として、株主様をはじめとするステークホルダーの皆様のご期待に応えられるよう成長継続のため、努力してまいります。

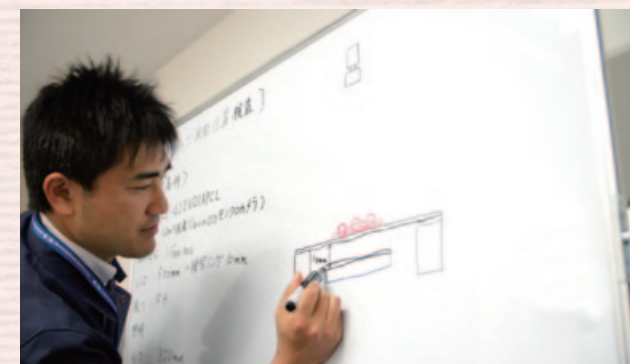
テストングルームの拡充により、 ライティングソリューションをすべてのお客様へ

お客様への充実したサポート体制

お客様によって、検出したい欠陥や計測したい外観寸法など、さまざまな検査ニーズが存在しています。例えば欠陥検出検査と言っても、キズ、打痕、凹凸、汚れの有無などの検査があり、検査対象物の素材や大きさ、色、環境などによって、検査の内容は大きく異なります。

それらのご要望の一つ一つにお応えするため、シーシーエスでは、形やサイズ、光の強さや波長などが異なる1,400機種以上の製品をラインナップしているだけでなく、1万台を超える無料貸出機をご用意しており、さらに、ご要望があれば営業マンやSEがデモ機を持参して無料出張実験を行っています。また、お試しいただくための十分な設備がないお客様には、全国に展開している当社のテストングルームをご活用いただくことで、日々、高度化が進むお客様のニーズにタイムリーにお応えできる体制を整備しています。

シーシーエスが展開しているテストングルームには、豊富なMV(マシンビジョン)用LED照明や電源のみならず画像処理検査には欠かせないカメラ、レンズなどの周辺機材も数多く取り揃えており、お客様が最適な検査環境を構築するためのお手伝いをしております。



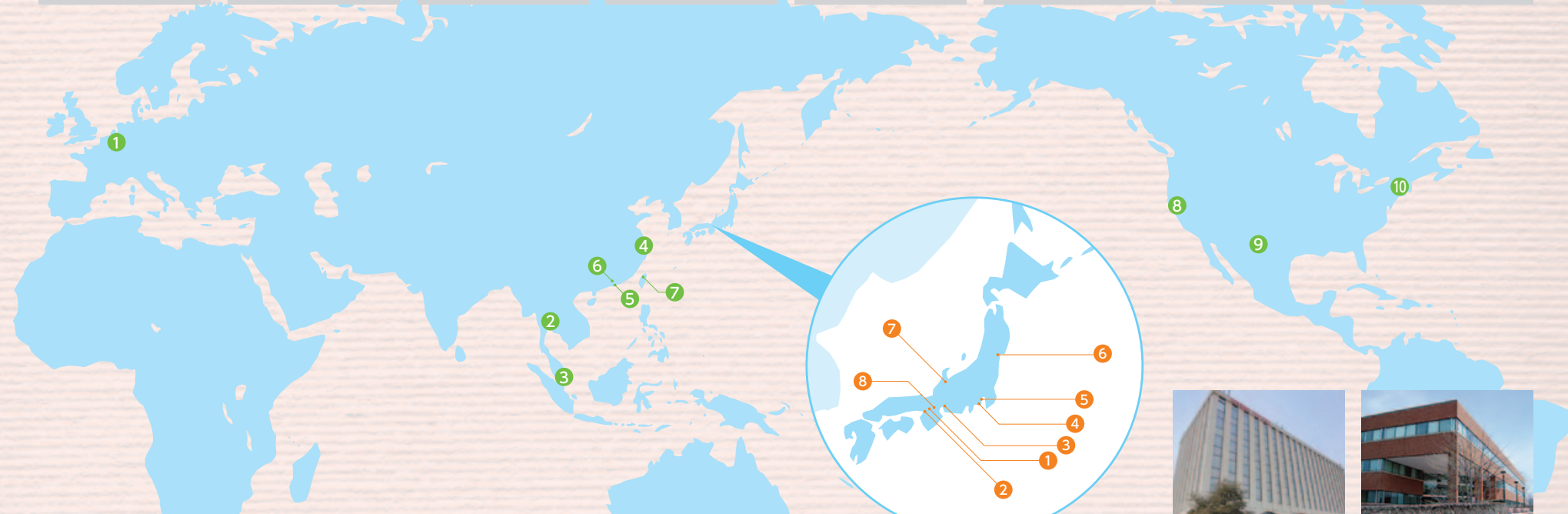
さらに身近になるライティングソリューション

当社は2014年に、金沢(石川県金沢市)、守山(滋賀県守山市)、エルパノ(米国テキサス州)にテストングルームを開設いたしました。そして、更なるサポート充実を目指し、この2015年10月には、淀屋橋(大阪市中央区)、本厚木(神奈川県厚木市)、サンノゼ(米国カリフォルニア州)にもテストングルームを開設いたしました。

お客様の利便性向上を目的としたテストングルームの整備により、お客様が検査対象物を持ち込んで検査する件数は、年々増加傾向にあります。

2015年10月のテストングルーム開設によって、国内はこれまでの6拠点から8拠点へ、海外は10拠点となりました。これからも、より多くのお客様に、当社の「ライティングソリューション」をご利用いただき、最適な検査環境を構築していただくために、シーシーエスは、更なる環境整備の強化を続けてまいります。

国内のテストングルーム



海外のテストングルーム



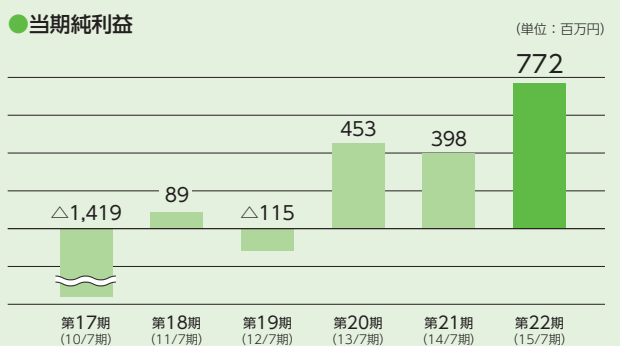
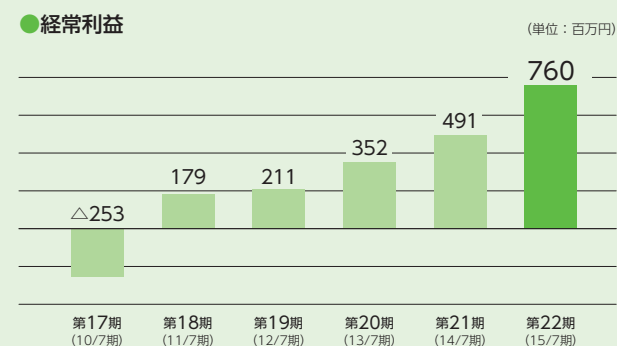
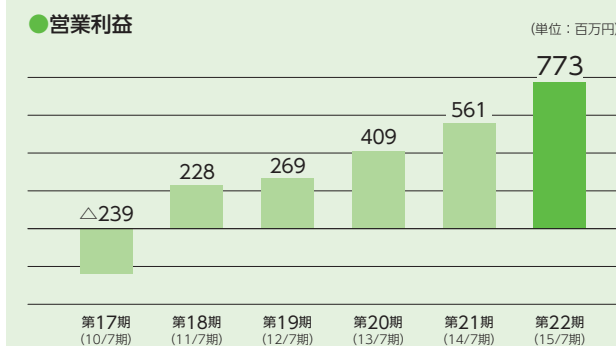
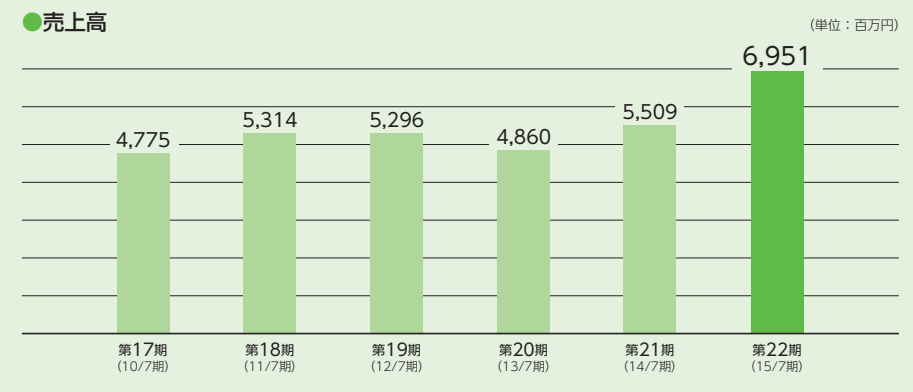
連結決算の状況

Consolidated Financial Highlights

決算のキーポイント

2014年8月1日～2015年7月31日(第22期連結会計年度)
※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

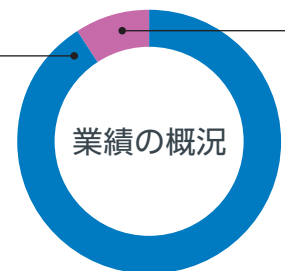
- MV(マシンビジョン)事業では、国内・海外ともに電子部品・半導体業界、自動車業界および三品(食品・医薬品・化粧品)業界の堅調な設備投資を背景に、ソリューションの拡充や営業エリアの拡大、新製品の投入に積極的に取り組みました。加えて、前連結会計年度に中国広東省に設立した合併会社による売上寄与と、円安による為替効果もあり、売上高は大きく伸びました。
- 売上高の伸長により営業利益・経常利益が増加し、さらに、繰延税金資産の積み増し等により当期純利益は大幅に増加いたしました。



MV(マシンビジョン)事業 **91.0%**

売上高 **6,323**百万円 **前期比 27.6%増**

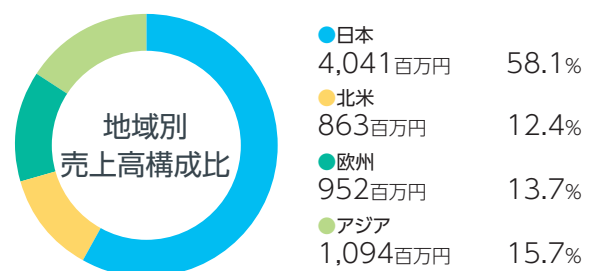
営業活動量の増加、技術力を活かした特注対応の強化、顧客ニーズに沿った新製品開発等を推進した結果、売上高は大きく伸びました。



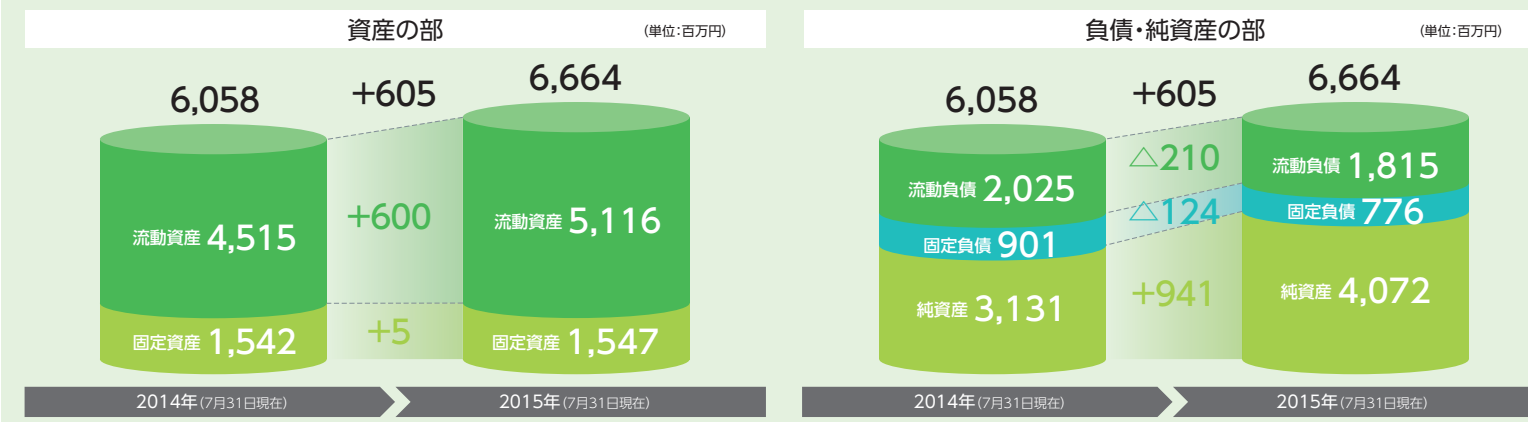
新規事業 **9.0%**

売上高 **627**百万円 **前期比 13.3%増**

当社の強みである「自然光LED」の応用展開に努めた結果、売上高は堅調に推移いたしました。



連結貸借対照表



ポイント

受注増加に伴い、在庫を積み増した結果、資産が増加いたしました。借入金の返済が進んだことで流動負債、固定負債ともに減少いたしました。また、当期純利益の増加に伴い、純資産が増加いたしました。

第23期見通し MV(マシンビジョン)事業において、国内では周辺商材を含めたシステムソリューション営業をさらに拡充し、顧客への迅速なサポート体制を強化するべくテストングルールの増設や人員の強化を行うことで、更なる地位の向上を目指してまいります。海外では、世界の全エリアでのトップシェア獲得を目指し、現地ニーズに沿った製品開発やサービス向上に注力し、未開拓エリアへの積極攻勢を進めてまいります。新規事業では、新たな事業シーズの掘り起し、海外市場攻略も見据えた営業活動を強化してまいります。

以上により、売上高7,800百万円、営業利益920百万円、経常利益860百万円、親会社株主に帰属する当期純利益540百万円を見込んでおります。

配当 当社は、株主各位に対し利益還元を継続して行うことを経営の重要課題の一つとして認識しております。剰余金の配当に関しましては、財務体質の強化と内部留保の充実を考慮した上で、将来の事業拡大を総合的に勘案し、適切に実施していく方針であります。

第22期の配当につきましては、上記の方針に基づき、普通株式については1株当たり20円、A種優先株式については発行時に定められたA種優先株式発行要項に基づき、1株当たり5,015円の配当を実施することを決定いたしました。

なお、当社は、第23期以降の配当方針につきまして、以下のとおり変更いたしました。

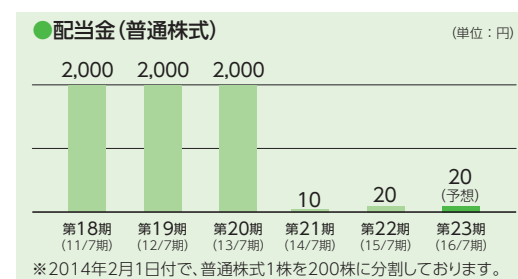
当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付け、事業活動によって得られた利益を、従業員への賞与、株主の皆様への配当、成長資金としての内部留保へ適正に配分することにより、資本効率を高め、持続的な成長と企業価値の向上を目指してまいります。

経営環境の変化に耐えうる財務基盤を維持し、中長期の成長資金確保のため、内部留保の充実を図りながら、配当につきましては、当面、期末配当として年1回、連結配当性向20%~30%*を目標として、継続的かつ業績に応じた利益還元をしていく方針です。

詳細な財務情報のご案内 当社ホームページの[IR情報]に各種資料を掲載しております。 **IR情報** http://www.ccs-inc.co.jp/s3_ir

2016年7月期(第23期)連結業績予想・配当予想

売上高	7,800百万円
営業利益	920百万円
経常利益	860百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	540百万円
1株当たり年間配当金	20円



展示会出展情報

TOPICS 01

国際カーエレクトロニクス技術展

会期：2015年1月14日～1月16日 会場：東京ビッグサイト

2015年1月14日から3日間、東京ビッグサイトで開催された国際カーエレクトロニクス技術展に出展いたしました。この展示会は、世界中の自動車・自動車部品メーカーに関わる企業が集まる展示会で、エンドユーザー様への直接PRを目指しました。協業先である(株)アパールデータとの共同開発品であるカラー3Dスキャナーをはじめ、画像処理検査についてのさまざまな技術提案を展示いたしました。



ファインテックジャパン2015

会期：2015年4月8日～4月10日 会場：東京ビッグサイト

2015年4月8日から3日間、東京ビッグサイトで開催されたファインテックジャパン2015に出展いたしました。各種フィルムの開発・製造に必要な製造装置や部品メーカーが集まる展示会で、シーシーエスは、UV(紫外)による樹脂硬化・接着・コーティング・洗浄・殺菌などを総合的に解決できることをご紹介いたしました。充実した製品ラインナップの展示により、シーシーエスのソリューション力を強くPRすることができました。



MEDTEC JAPAN 2015

会期：2015年4月22日～4月24日 会場：東京ビッグサイト

2015年4月22日から3日間、東京ビッグサイトで開催されたMEDTEC JAPAN 2015に、今回シーシーエスは初参加いたしました。医療機器の設計・製造に関わる企業が集まる展示会で、正確な色認識を可能とするシーシーエスオリジナルの「自然光LED」を医療分野にPRいたしました。「自然光LED」が搭載された共同開発品も展示するなど、シーシーエスのLEDデバイス技術は広がりを見せつつあります。



VISION SHOW 2014

会期：2014年11月4日～11月6日 会場：Messe Stuttgart

2014年11月4日から3日間、ドイツ・シュトゥットガルトにて開催されたVISION SHOW 2014に、CCS Europeが出展いたしました。画像処理に関わる企業が世界中から集まる大きな展示会で、シーシーエスは、エリア、ラインセンサ、赤外、紫外といった幅広い照明ラインナップを展示しました。加えて、英国Gardsoft社の開発したTrinityシステムを組み込んだ検査用照明も展示し、画像処理システムから照明を一括コントロールするといった、新しい取り組みもご案内しました。



新製品情報

TOPICS 02

シーシーエスでは、積極的にアライアンスを進めることで取扱い商材の拡充を進めており、MV(マシンビジョン)用照明だけでなく、トータルでのソリューション提案を行っております。

リング照明一体型超小型USBカメラ

(株)アイジュール、(株)オプテルとの共同開発、世界最小クラスの照明一体型超小型カメラ

「リングライトガイド一体型超小型USBカメラ」は、(株)アイジュールが開発した超小型カメラの周囲にリング状にファイバーを配置し、強力な明るさながらφ11mmという小型サイズを実現いたしました。狭小な場所で高速に移動する被写体でもブレなく撮像が可能です。

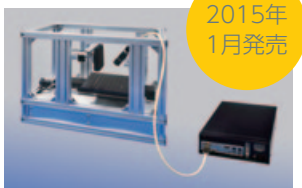


2014年
12月発売

卓上型高速・高分解能カラー3Dスキャナー

(株)アパールデータとの共同開発、3D画像での検査を実現

「卓上型高速・高分解能カラー3Dスキャナー」は、シーシーエスの白色LEDによるスリット光源を使用し、高さ情報と色情報を同時に読み取ります。また、(株)アパールデータの技術により、極めて高速での画像処理を可能といたしました。2D画像では検出が難しい、微細なキズや凹みなどに、鮮明なカラー画像の取得を実現した本装置で、画像処理の可能性を広げてまいります。



2015年
1月発売

MV(マシンビジョン)照明は、顧客ニーズに沿った製品を切れ目なく市場にお届けすることを方針に、第22期はさまざまなMV用照明を開発いたしました。

LDLBシリーズ

欧米向けに開発した、シーシーエス初のコントローラー内蔵型

「LDLBシリーズ」は、広範囲を明るく照射したいという欧米のニーズに合わせ、大型アプリケーション向けの検査用途に開発した製品です。さらに、調光設定やモード切替をパネル操作で簡単にできるコントローラー内蔵型で、過酷な環境下でも使用可能な防水・防塵タイプもご用意し、使いやすさを追求いたしました。

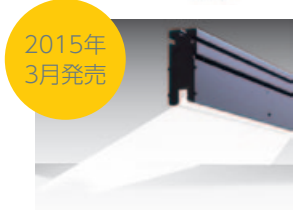


2014年
11月発売

LNDGシリーズ

ラインセンサ用片側斜光照明、搬送方向の欠陥検出に最適

「LNDGシリーズ」は、これまでラインセンサでの画像処理検査においては検出が困難だった、搬送方向の縦キズ等の検出を実現した製品です。明るく平行な光を、検査対象に対して斜め方向に照射することで、欠陥をくっきりと検出します。



2015年
3月発売

会社概要

(2015年7月31日現在)

本社所在地 〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
TEL.075-415-8280(代表) FAX.075-415-8281(代表)

設立 1993年10月6日

資本金 462,150千円

従業員数 227名(連結) 198名(単体)

取引銀行 みずほ銀行・三井住友銀行・三菱東京UFJ銀行・京都銀行

事業内容 画像処理用LED照明装置および制御装置の開発、製造、販売
顕微鏡光源用、植物育成用、医療用、美術館・博物館用、
その他LED応用照明の開発、製造、販売

事業所 生産センター、光技術研究所、東京営業所、名古屋営業所、
テスティングルーム(仙台・金沢・守山)、上海駐在員事務所、
深圳駐在員事務所、台湾駐在員事務所

主な関係会社 CCS America, Inc. CCS Asia PTE. LTD.
CCS Europe N.V.
東莞銳視光電科技有限公司



役員

(2015年10月28日現在)

取締役兼代表執行役社長	各務 嘉郎	執行役員	右井 博規
取締役兼代表執行役専務	松室 伸二	執行役員	梶 紀公
取締役兼執行役常務	大西 浩之	執行役員	吉田 正信
取締役(社外)	中河 光雄	執行役員	豊福 敏之
取締役(社外)	酒見 康史	執行役員	梶原 慶枝
取締役(社外)	岩本 朗		
取締役(社外)	徳尾 陽太郎		

株式の状況

(2015年7月31日現在)

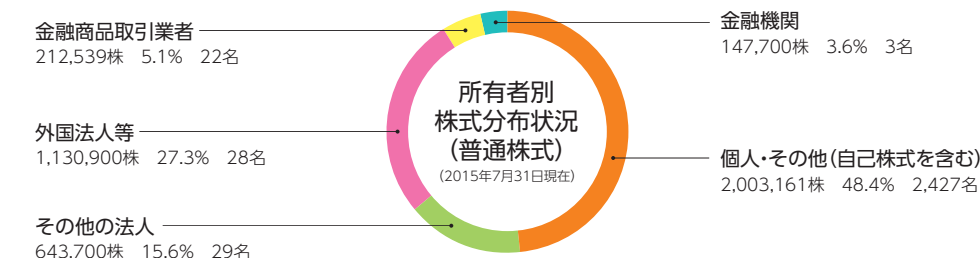
発行可能株式総数	12,005,103株
(内訳)	普通株式 12,000,000株 A種優先株式 5,103株
発行済株式の総数	4,143,103株
(内訳)	普通株式 4,138,000株 A種優先株式 5,103株
普通株式の単元株式数	100株
株主数	2,513名
(内訳)	普通株式 2,509名 A種優先株式 4名

大株主の状況

(2015年7月31日現在)

株主名	株式数	所有株式数の割合
1 ピースヴィラ・エルピー	483,000株	11.7%
2 ハッピーコースト・エルピー	290,400株	7.0%
3 株式会社サン・クロレラ	270,000株	6.5%
4 三菱化学株式会社	220,600株	5.3%
5 エムエルアイ フォークライアント ジェネラル ノントリーピーパー	160,400株	3.9%
6 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	118,000株	2.8%
7 サン・クロレラ販売株式会社	112,000株	2.7%
8 中谷宅雄	112,000株	2.7%
9 株式会社SBI証券	85,200株	2.1%
10 原田熊太	70,300株	1.7%

※所有株式数の割合は、自己株式(普通株式23株)を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	毎年10月
基準日	期末配当金 毎年7月31日 他の配当を行うときは都度会社が定めた日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵送物送付先・連絡先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)

ご注意

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、下記特別口座の口座管理機関にお問い合わせください。
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話 0120-094-777(フリーダイヤル)
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行全国本支店(コンサルティングオフィス・コンサルプラザを除く)にてお取扱いいたします。

公告方法 電子公告
公告掲載 URL
<http://www.ccs-inc.co.jp/ir/koukoku.html>

(事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ市場
証券コード 6669

WEBサイトのご案内

「企業情報」では、CCSの事業内容や強みについて動画でご紹介した「CCS会社紹介」をご覧ください。「IR情報」では、財務ハイライトやニュースリリース、説明会の動画などを随時更新しています。

ぜひご覧になり、「お問い合わせ」のページからご意見・ご質問など、皆様のお声をお寄せいただければ幸いです。



トップページ

「IR情報」の入り口はこちらです。

CCS会社紹介

入り口はこちらです。

IR情報ページ

最新の情報が見やすくなっています。



<http://www.ccs-inc.co.jp/>



シーシーエス株式会社

〒602-8011 京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374番地
TEL : 075-415-8280(代表) FAX : 075-415-8281(代表)

ご注意

この株主通信に掲載している将来に関する予想は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、異なる場合があることをご承知おきください。

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを
採用しています。

